

子どもの進路は話し合いから

職業補導所を作ろう!!

中学生を子どもに持つ親の悩みは進学と、就職の問題である。それとも子どもをあつかっている先生の苦勞もなみだっているものではない。とくに進路指導の係はなにくれと気がつかっているものだ。

「中学生の進路指導のあり方」ということで、市内の中学校の進路指導をしている先生たちにあつまっていただき、その苦勞はなしをしてもらった。

司会 ます進路の現状といったものから、

▼鸚ヶ池は二百四十人でその六十六％は進学、三十％が就職と、残りの四％はその他で、家業の手伝いといったものが多い。

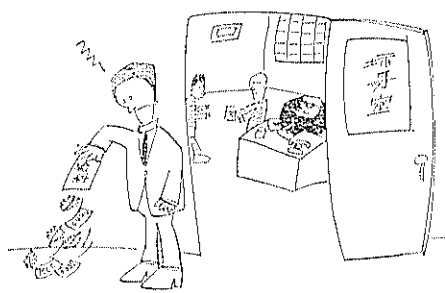
▼香南は百八十七人、そのうちの八十から八十五％が進学希望者でしめ、毎年同じ割合をしめていて、就職者は少ない。

▼岡豊中は七十五人のうち、六十名が進学で八十％と、三人が家業に従事し、その他は就職の希望者となっている。

▼香長中は七十五％が進学生であつて、三

指導のあり方

念による事業所の無理解も問題だが、縁故による就職にもよい面と悪い面が見られる。せつかに



行ってみてがっかり

▼中学校には職業指導に要する設備もなく、技術面の指導はできていない、職業についての専修学校といったものが将来必要である。

▼それは必要だ。職業補導所は希望者が多く、高校入学よりもむつかしい。昨年定員二十名のところへ二百名の希望があるなど狭き門である。

▼できれば南國市へ、職業補導所とか、専修学校のようなものを誘致し、子どもに夢をもたせてもらいたい。

司会 高中で職業指導をしてもらうのだが、

座談会・中学生の進路指導のあり方

く職につきながら離職、転職するものも多い。

▼離職や転職の原因は、本人の適職についていないことだと思ふ。そのためにも適職につく機会を与えてやるのが大切だ。

▼能力のない子を進学させても駄目だ。その子たちには始めから就職をさせた方が無難で、立派な工員になり、技術員になつていくものもある。

▼中学校には職業指導に要する設備もなく、技術面の指導はできていない、職業についての専修学校といったものが将来必要である。

▼それは必要だ。職業補導所は希望者が多く、高校入学よりもむつかしい。昨年定員二十名のところへ二百名の希望があるなど狭き門である。

▼できれば南國市へ、職業補導所とか、専修学校のようなものを誘致し、子どもに夢をもたせてもらいたい。

司会 高中で職業指導をしてもらうのだが、

福祉教員の配置を就職後の補導も大切

▼職安では職業の紹介はしてくるが、あとのことはみしてくれない。待遇など条件と違ついても責任をもつてくれないので困る。職安まかせでは心配だ。

▼職安を通じて、信ずる以外になく、仕事先の視察をし、確信をもって世話したいのだが、……司会 企業体を見ることのできない理由は、

▼忙しいことと予算の裏付けのないことだ。視察に行ってもほかの先生に迷惑をかけるのでたびたび行くことはできない。昨年

名吉屋、大阪を中心に行つてみたが、参考になった。

▼人的な配置がなされていらないし授業が多い、法では福祉教員の配置を義務づけてあるが、県下では一名の福祉教員もいない。これでは進路指導の実をあげることはできない。

▼進路指導の時間と経費もほしいが、それよりも専門にその仕事をする福祉教員の配置をのぞんで止まない。

司会 南國市全体に一人か、二人の福祉教員でも配置してもらつては、

▼そのようなことでも結構だ。早く福祉教員の実現を図つてもらいたい、将来は各学校への配置を望みたい。

▼進路指導で大切なことは、事業所を知ること、そこで働くこともたちに会つて、待遇や条件不満とか、不安な気持ちを聞いてやり、元気づけてやることにある。そのために事業所へゆく必要がある。

▼就職児童は郷土のたよりいうえホームシックにかかりやすい、児童を心づけ非行化を防ぐために就職後の補導も大切だ。

司会 就職先は、どの方面が多いか、

▼男子は鉄工関係と自動車の修理

中学生の進路

工、女子は紡績関係が多い。しかし、自動車の修理工には離職や転職、勤め先を変えるものもある。条件の悪い会社へ他人の口車にのつて変わるものが多く、次第に悪い会社に移つて行く傾向が強い。

▼社会の経験がないので、だまされやすいし、悪い引き抜きにかかることになるのだから一年足らずに四〜五回も職場を変えているものもある。男子に定着しないものが多く離職者に非行化する傾向がみられる。

司会 塾をどのよう

に思うか、

▼塾もよいだろうが本末転倒してらつては困る。学校は「知、徳、体」の教育をしているが、塾は「知」のみである。

▼父兄は不安だからやらしているだろうが、そのため学校の勉強がおろそかになったり、遅刻しては困る。能力のないものにはよいだろう。

香長中	中沢先生
香南中	広地先生
鸚ヶ池中	端先生
岡豊中	岡崎先生
教育主事	細川先生
出	広報委員

▼学校教育を充実しながら、余力があつてゆくのはいくらうし伸びてゆくことを考え、父兄と先生が第三者の、立場から見守つてやることだ。

▼塾の先生から私立へといわれたが、公立のみを受けさせた。あとで聞くと金を出しそうな家庭へゆき、つてがあるからということを出すが、目的であつたようだ。すべての塾がそうというのではないが、悪いところもあるようだ。

司会 進学についてなにか、

▼能力のない子の進学は、決してよいことでない、怠学をし結局は退学への道をたどることになる。

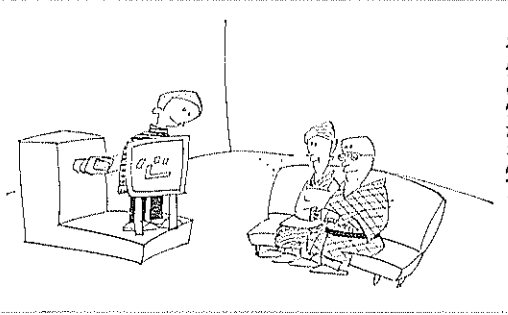
▼そのために入ってから苦勞するものには、進学をすすめていない。ことしも全入でなく、受験者の八十五％の入学率であるしかし、南國市はそれ以上の入学者がある。

▼香南と、鸚中は、高知と、山田

城山への受験ができるので、その点慮ぐまれている。しかし、市内校の希望者が多く、郡部校への志望者は少ない。

▼合格の割合はいろいろと、八十五％が第一志望、七％が校区外の入学、三％が第二志望となつており、第一志望で、合格できるところを選ばべきである。

子供の性格を知る



▼第一志望で落ちたものは、第二志望校への入学はむつかしい。高知は私立校への入学がむつかしいが、県外では私立の方が入り易く公立がむつかしい。

▼ことしから普通高では、類形別に四コースに分かれている。進級でも、理数と、文科コースと

就職でも二つのコースに分かれているので、それぞれ自分の進むべき道求めて受験すべきだ。

親の見えから非行化へ個性を知ろう

司会 進路はいつ決めるべきか、

▼能力木位に考えてやること、幼少のときから個性をつかみ進路を決めてやるべきで、中学へ入学すれば進路の調査もし、指導もしている。

司会 父兄に望むものは、

▼親は自分よりも立派にしたいという未来像をいっていており、能力を理解しようとしていない、個性と能力を十分に知って先生と相談して決めてもらいたい。

▼また、教師も親が子どもになにを望んでいるのか、充分しつてからならなければならぬし、親と子の望みの調整も大事だ。

▼子どもは希望しないが、親の見えから進学をさせ、非行化への道をたどるものがある。近所への思わくからとんでもない失敗をした例が多くあることを考えてもらいたい。

▼中学校で人についてゆけないものが入学を希望するが、とんだ

ナンセンスだ、たとえ入学しても、あととその子に苦勞をかけ、悪くすると退学ということもあるし非行化の原因となる。

▼社会の流れにまどわされることなく、親は子どもとよく相談をして、進学、就職のことを考えてやってほしい。

司会 終りになにか

▼進路指導の適切か、否かにより子どもの非行化にもつながっているものだ、現状では担当の教科に追われ、時間の余裕がないせひ進路指導の仕事を配置すべきだ。

▼農業をするからといっても、中学のみではいまの近代農業にはついてゆけない、農業高校は出るべきだ。

▼作ることから販売まで、企業としての考える農業を経営すべきで、むかしのように時間のみ働いて仕事師といったことではいけない、そのためにもせめて定時制でよいから勉強すべきだ。

社会を明るく

座談会・中学生の進路指導のあり方